

令和3年度第2回芽室町総合教育会議

日 時 令和3年11月24日（水） 17時10分から17時50分まで
場 所 芽室町役場2階会議室7

出席者	芽室町長	手島 旭
	教育委員会 教育長	程野 仁
	教育長職務代理者	鳥本 和宏
	委 員	福井 栄子
	委 員	松久 大樹
	委 員	土井 槟悟

(事務局)	教育推進課長	有澤 勝昭
	教育推進課長補佐	清末 有二
	生涯学習課長	日下 勝祐
	政策推進課長	石田 哲
	政策推進課長補佐	佐々木 雅之
	政策推進課政策調整係主事	佐藤 拳伍

議事録

1 開会

要綱第4条に基づき、町長が議長になり進行

- ・実行計画の構造とスケジュール（主要事業の意見交換、前年度事業評価、サマーヒアリング、実行計画、翌年度予算要求のサイクル）について

2 議題

（1）2022実行計画について

事務局政策推進課長補佐より別紙「2022実行計画」について概要説明

◎【小学校（中学校）施設維持管理事業】（資料1～4）

鳥 本 委 員 児童生徒の減少に伴う学校編成等の展望は。

手 島 町 長 段階的な進め方となり、教育委員会から議論が始まって、町全体での話になる。今の状況を確認し、施設の更新等も含めた長期的な議論によって検討していく。

程野教育長 児童生徒の減少の推移を見ながら考えていきたい。上美生中学校では来年度複式学級となる可能性があり、複式学級となると閉校するという計画もある。ただし、数年後、単式学級に戻ることも考えられるため中長期的な推移をみていく必要がある。

松 久 委 員 規模が小さい学校の良さもあるが、そのことで団体競技の部活動ができない等の実態もある。地域住民の声を聞くことや状況を見ることも大事だと思うが、今学

校に通っている子どもやこれから通うことになる子どものことを一番に考えていただきたい。ただ、上美生地区の環境は素晴らしい、手法によっては異なる特色のある学校になると思う。特色のある学校が存続していく中で、通う子どもが学校を選択できるようなことも模索していただきたい。

手 島 町 長 上美生中学校の状況は、山村留学生の人数によって大きく変わる。地域が山村留学生の受け入れについてどのように考えているのか等、上美生地域のまちづくりも含めて議論していく必要があり、これが基本の考え方となる。また、近隣町村のように、政策として山村留学を位置づける等の判断は必要だと思う。地域の方にも山村留学の受け入れをお願いしており、地域の声も大事にしている。

程野教育長 先ほど複式学級になると閉校する計画があるという話をしたが、山村留学生の受け入れがない場合は、来年度1年だけの予定であり、当面は継続していく予定。この先も継続して複式学級になるというのであれば、思い切った判断も必要となる。子どもが減ってきてるのは間違いないく、いずれその議論は必要になってくる。中学校区エリアで小中一貫、9年間の育成プログラムの編成等により教育の質を高めることも考えながら、地域の声を聞いて進めていきたい。

◎ 【児童生徒支援事業】（資料10頁）

福 井 委 員 教育支援センターゆうゆうの民間委託と記載があるが、委託先はどのように考えているか。

有 澤 課 長 町外の学校法人を検討している。

手 島 町 長 サービス低下等にならないように、ノウハウのあるところにお願いしたいと考えている。

◎ 【教材・教具整備事業（小学校・中学校】（資料16・17頁）

松 久 委 員 G I G Aスクール構想により導入した機器の管理・更新について、財政的負担が懸念される。何年使えるかも、一般論では6年も使えないのではないか。

また、デジタル化しなければならないという思いが先行するあまりに、目的と手段が見えなくなってくることを危惧している。教科書がデジタル化されるなどメリットもあるが、一方、紙の方が見やすいということもあるかもしれない。目的は教育を充実させることであるため、今後デジタル化が馴染まないことがあれば、今までの紙のやり方に躊躇なく戻すことも必要だと思う。

手 島 町 長 G I G Aスクール構想によるデジタル機器の整備や農村部における光回線の整備もコロナ関連の補助金や交付金等全国的な動きがある中で、芽室町もこの機会でないとこれらの整備はできなかった可能性がある。更新や維持管理経費の補助について、国に対して要望させていただいている。まだ明確な解答はないが、市町村の財政力に差があり、更新できないことがあるかもしれない。国が

基本となってフォローしていただく必要があるため、引き続き要望していく。デジタル化における教員のノウハウについて、担当の教育推進課も課題として認識している。

程野教育長 教科書は令和6年度までに全教科デジタル化することとなっている。目的と手段については全く同感。教員が生徒に対してアナログの指導がしっかりできていないとデジタル化で指導はできるはずがないので、アナログで培ってきた指導力によってデジタルをどこでどう使うのか、教育課程上の位置づけをしっかりとしながら進めていきたい。

◎ 【温水プール維持管理事業】（資料25頁）

手島町長 温水プールの建替についてはプール以外にも、体育館のトレーニングルームが狭くて器具も古いので、広くして器具の数を増やしていくとしている。今回の工事はプール1つの目的だけではなく、複合機能も充実させていく。案が固まり次第、改めてお知らせする。

◎ 【全体をとおして】

鳥本委員 新嵐山について、現在の改革によって様々な人が集まる環境になってきていると思うが、既存のスキー少年団が夜滑れなくなっていると声を聞いていている。子どもだけでも利用しやすい環境にしていただきたい。かっこうは新嵐山を通る中間点であるため、このまま建物を老朽化で無くすのではなく、子どもたちのスポーツ利用等で活用してほしい。

手島町長 新嵐山のスキー少年団とは指導者と協議させていただいて、ナイターの営業時間を延長するなど納得ご理解いただいた上でやらせていただいている。第2リフトは昨シーズン利用しないこと也有ったが、今シーズンは全日利用できるように変更する。ナイター利用が10人以下の日もあり、経営上厳しい状況ではあるが、初心者利用や子どもたちの利用に力を入れていく考えである。スポーツのできる環境づくりについて、指導体制や少数しか希望がない場合など様々な要因があり危惧はしているが、教育委員会も含めて今後も考えていきたい。

3 その他

事務局より次回の総合教育会議日程は翌年2月の開催を予定としている旨説明。

4 閉会

17：50終了